

平和を知る

網走市立第三中学校 三年 森下 幸(もりした こう)



私は青少年平和都市友好交流事業の参加を通して、たくさんのことを学び、また貴重な体験をさせていただきました。

「平和」についての講話を沖縄戦体験者の久保田暁さんからお聞きしました。「真の平和とは尊厳を持って生きられる社会である」その言葉の意味は、私たちには人として生きる権利を一人一人が持ち、大切にされ、誰もが安心して生きられる社会であるということだとおっしゃっていました。ですが、悲惨な戦争が繰り返された当時の沖縄は人が人でいられなくなる修羅場であったそうです。今でも、戦争の傷跡や不発弾、地下を見れば遺骨が見つかる、などの現実を知り、戦争の計り知れない恐怖を感じさせられました。沖縄戦は日本本土の戦争を遅らせるための時間稼ぎとも呼ばれる戦略持久戦でありました。辺りで戦争が繰り返されている中、久保田さんはまだ赤ちゃんの頃であり家族で必死に逃げている生活をしたそうです。そんな生活は、ガマという洞窟の中で、食べるものも飲むものも少なく、泥水や人の血が浮いた水などを飲んで生きる過酷な日々でした。生きることが苦しくても生きることを諦めず平和を願い続ける人々の姿を思い浮かべるととても心が苦しくなりました。

ひめゆりの塔は、最も多くの犠牲者が出たとされるガマの上に建てられたといわれています。資料館の中には、生徒が先生につけたあだ名集や生徒の持っていたもの、当時の病院壕のジオラマ、証言映像などと歴史あるものが詰まっていました。私が印象に残ったのは生徒たちの顔写真が綺麗に並べられているところです。その写真の下には一人一人の名前とプロフィールが載っており、それがとても生き生きとした内容だったので、切ない気持ちになりました。

糸満市市長表敬訪問の際は、交流団員の代表の質問に対して市長がわかりやすく説明しながら丁寧に答えてくださいました。そしてワークショップでは、オリジナルの平話都市宣言をみんなで考えてみました。網走・厚木・糸満の3つの平和都市宣言を比べると、私は3つの宣言とも1つの市の平和都市宣言なのに書いてることは世界や国際的な今後の地球の未来に繋がるための平和という共通点があると考えました。実際に話し合ってみるととても難しく苦戦しましたが、みんなのいい意見のお陰で、平和都市宣言を作る事ができました。このワークショップ・糸満市市長表敬訪問は糸満市の観光だけでは学べないことを教えてくださり、そして平和に繋がる考え方について深く知る良い機会となりました。

また、沖縄の透明で綺麗な海へも行き、伝統的な木造の船、サバニを実際に漕ぎました。私は想像以上に大きくてびっくりしたのと、簡単に動く仕組みなのにうまく漕ぐのはとても難しかったです。

他にも、沖縄の伝統料理をたくさん食べる機会もあり、みんなで美味しい料理をいただき、私はとても幸せな気持ちになりました。

素晴らしい自然や文化に触れ、沖縄ならではの思い出を沢山作ることができました。

今回の事業を通して、私は真の平和がいかに尊いものかを知り、この友好事業も平和でなければいけないということも改めて実感しました。これからは、当たり前の日常にもっと感謝しながら過ごしていこうと思います。

この四日間で関わってきた全ての方々本当にありがとうございました。